

第21節 ふたごたちのマイブーム

ふたごたちは2005年10月に6歳になり、お兄ちゃんは9歳になった。

ふたごたちは幼児を脱しつつあり、次第に少年に近づいてきた。3歳違いのお兄ちゃんは、基本的に優しく、弟たちが大好きなので、よく一緒に遊ぶ。ちょっと目には3つ子化していることが多い毎日だ。

現在ハリーポッターにはまっている。新しいハリーポッターの映画が封切られるのを前に、前作がテレビ放映されたのがきっかけであった。

家に着いて、私がゴソゴソ鍵を探していると、「アロホモラ」で鍵を開けてくれるし、「持ってきて」と頼むと、「ウインガーディアムレビオーサ」で、物体浮遊を試みる。

そもそものきっかけはレゴブロック。6歳の誕生日に、じじちゃんとばばちゃんから、映画に出てくる赤いホグワーツ特急列車と紫のナイトバスをプレゼントしてもらったのだ。

ついこの前まで、レゴブロックは気に入った部品だけ買い足すことができるサービスもあった。だが、今はそれが廃止され、バケツやコンテナに基本ブロックが積みられているセットの他は、映画とタイアップをして、組立図付きのセットばかりだ。車輪の部品ばかりが欲しいのに、手に入らない。

基本部品だけの組み合わせで、多種多様な立体を創造することができることこそが、至極の幸せで、想像力のさらなるパワーアップにつながると確信していたから、ちょっと許せない！販売路線変更だ！と頭に來ていた。

でも、リョウが今回、8歳以上対象のセットに取り組み、みごと一人でやってのけたのを見て、手順書を見てじっくり取り組めるブロックもまんざらではない、と思った。誰も入り込めないくらい集中して、番号を追い、ページをめくりながらひとつひとつ部品を組み立てている姿は、驚くよりほかなく、感心するばかりであった。本当に誰の手も借りずに仕上げ、それと寸部違わない列車が映画で出てきた時の感動は、計り知れなかった様である。

タイも同じくできるかと思いきや、どっこい！甘かった。

3階建てのバスを作るのに、部品が1階部分ずつ透明の袋に分けられているのを、全部最初に開けて混ぜこぜにしてしまった。なんて浅はかな奴だ。6歳に8歳のことをさせるのは無理！と思い知らされた次第だ。

一応ひとりで進めていくのだが、どこかで間違っているの、あとのページで書いてあるとおりのことができなくなる。「これはどこにつけたらええの？」「ここ、間違えたし、とってえ！」と、いちいち人の手を止めにくる。

あらぁ、ふたごでもこれだけの差が出ましたかぁ～！！っていうのが正直な感想である。ちなみに、体重は2キロ・身長は3センチ差がある。

昨秋は、新1年生健康診断にも行った。

お兄ちゃんの参観日について行ったこともあるので、校舎には行ったことはあるけれど、誘導役の5年生のお兄さんお姉さんにグループ分けしてもらい、母と離れて行動する。

眼科・歯科・耳鼻科……体の隅々までチェックしてもらい、最終の内科検診で私と再会するまでは、ちょっとドキドキだったろう。

番号と名前を申し出てから健康診断がスタートすることになっていた。当たり前だが、リョウとタイは連番である。受け付けで“ふたご”であることを伝えておいたが、保護者が同席しなければならない内科検診で、リョウとタイは別グループであることがわかり、私はちょっと慌てることになった。

先に来たリョウについている間、後から来たタイを連れて来てくれた5年生のお兄ちゃんは、「この子のおかあさんはどこ？」と探してくれるし、その状況を察知して、私は上半身裸のリョウにそこで待つように言い聞かせ、タイの元へ走り……とバタバタした。

係の先生がマサミツの担任の先生だったので、ちょっとの間、手をつないで待っていてもらって急場をしのいだ。

ほんとうに小さい頃は、お兄ちゃんだってまだ手がかかったので、子どもの数と大人の数が同じでないと、公共の場で用事を済ませることはできなかった。

私ひとりで子ども3人を連れて出るなど、どれだけ準備万端で出掛けても、悪い誰かに連れて行かれることがないか、ものすごい形相で子どもを監視しつづけていた。他人に迷惑をかけることが嫌な私は、子どもたちが騒ぐことがないように、どんな場でも子どもたちを叱った。その後は、叱ったことによる自己嫌悪やストレスでへとへとになった。

誰かが「抱っこ！」と言ったら一巻の終わり。いっそ、子どもたちを連れて出ることをしなければいいのだ、と体力温存を理由に家から出たくなかったこともしばしばである。

そんなことを思い出せば、新1年生の健康診断であたふたすることなど、何でもありませぬううう!!!「たまにはいい刺激」ってくらいの余裕の豪語も出る。

ふたご6歳・お兄ちゃん9歳になると、そんな頃がなつかしく……いえいえ、決してあの頃の苦労としんどさを振り返れば、なつかしくありませぬ!……今でも、多少種類は変わるけど、大変なことは結構あります。

最近嬉しいことが判明した。タイは音痴じゃないのだ。

“音痴”に関しては、私は何度もため息をついた。

結婚した夫が音痴だと分かった時、私は軽いめまいを覚えた。カラオケなどには行ったことがなかったので、歌を聴く機会もなかった。音痴かどうかを、結婚を決める条件に入れていなかったのが仕方ない。ギターが弾けると言っていたので、音程は分かるのかと思っていたら、結婚後、音叉で音合わせをして「こっちの音とこっちの音と、どっちが高

い？」って私に聞いてくる始末だった。

マサミツに賭けたが、彼はやっぱり軽い音痴だった。幼稚園で習ってくる歌を聞いて、ちょっとおかしいな、と思っていたが、発表会に行って「こんな曲だったんだ！」と横殴りされたような衝撃を覚えた。

映画サウンド・オブ・ミュージックが大好きな私は、お客様が来られたら、家族の合唱でお迎えするってのを理想としていた（夫はギターさえ弾ければ声は出さなくていい）。子どもとの合唱はこれで夢断たれた。

ふたごたちが生まれて、多少歌めいたものを彼らが口ずさんでも、一度しぼんだ期待はそうそう簡単に膨らみ直さない。

案の定、リョウはマサミツと同等の音痴。幼稚園で習ってくる、ものすごくかわいい歌詞についている曲は、なんとなく変。これは間違いない。

で、タイにリクエストすると、同じかわいい歌詞にかわいい曲がついてくるのではないか。タイは音痴じゃない。これが判明した時の私の期待は少し回復。（こういうとき答え合わせができるので、ふたごって便利？）

夫＝ギター、マサミツ＝リコーダー（3年生で習う。結構うまい）、リョウ＝鍵盤ハーモニカ（1年生で習う。とりあえず期待）、タイ＆私＝歌 っことで淡い夢を抱いている。

最近のタイのお気に入り「まんが日本むかし話のうた」。しっとり歌い上げるにはまだほど遠いが、しっかり元気に歌う。

「ぼおやあ、よい子だねんねしなっ！い～まもむかしも変わりなくううう……」

でも、じっと起立状態でいるのが苦手な子なので（ハリーポッターのブロックはリタイヤ）少年少女合唱団には入れられないなあ。

幼稚園生活も残すところ3ヶ月。

絵を描いた日は、スモッグはもちろんのこと、帰ってお風呂に入らなければならないくらい、髪から足の爪まで絵の具だらけの日々。

雪の積もった日は、ハナをたらししているのに、手袋がベチョベチョになるのも構わず雪の玉を作りながら歩く。

絵本を借りる時、最近ブームの本は「ミッケ！」という本（詳細はこの節の最後に記載）。かくれんぼ絵本と副題がついている。昔、「ウォーリーをさがせ！」という本があったが、趣旨はあれに近い。おまけに「ミッケ！」は「ウォーリー」よりもおしゃれで、現代風である。要はページの中から指定された物を見付けるのだが、絵で写真で、それがまた美しく、子どもたちのやる気をそそるようだ。

「ミッケ！」を借りてかえてきた日は、私も子どもたちと頭を突き合わせて、誰が最初に「あった！」「見つけ！」と言えるかと競うのを楽しみにしている。

ふたごたちは虫も大好き。動物も大好き。1冊もなかった昆虫の本は、この1年で4冊になった。顔の大アップが載っている、正統派観察解説付き写真集のようなのが大好き。

昆虫の本を開いたままにして、床に置いたままにしておくので、ものすごく嫌である。

移動動物園では、ついに大蛇を首に巻いた。6歳にして母である私が超えられないワザ(?)を身につけた奴等だ。絶対×ものすごく嫌~!!!

4月からは待望の1年生。本当に大きくなったね.....。

大きすぎるお腹を抱えていた頃に比べて、産んだ後は.....身軽になったでしょ。
昼夜を問わずフラフラだった授乳期を終えて離乳食.....ちょっとは楽になったでしょ。
歩き始めたふたごたち.....あ~ら、楽になったじゃない。
キャアキャア走りまわるこども3人.....まゝ、にぎやかで。
いよいよふたごは幼稚園、お兄ちゃんは1年生.....もうこれからは楽チンでしょ。
幼稚園の年長さん、すっかり悪ガキ.....これからは楽しみやね。

周囲のみなさんは、その時々を勝手に状況判断し、私の気持ちを押しはかって、テキトーなことをいろいろと言って下さっていました。きっと励ましてくれていたのね。ドーモありがとう。

振り返ってみると、その時々私は、その時々精いっぱいパワーを振り絞っているにもかかわらず、そのパワーは全て“ふたご+お兄ちゃん”に吸い込まれて、大変であった。とても“楽”とは言えなかった。苦笑いでいい加減の返事をしていた。勝手に“楽”だと決めないで!と内心怒っていたこともあった。失礼しました。

そして、今は今で精いっぱい。

おむつも授乳も離乳食も卒業したけれど、武器を持つての戦いや、下品な言葉でのしり合い、下ネタ満載の茶化しあい.....別の種類の悩みも当然出てくる。

でも、過去と比較すればやはり、少しずつ“楽”になってきている。

平凡な感想だが、「大きなケガや病気もなく、元気に大きくなってきているのでありがたい」というのがぴったり。

4月からは待望の1年生。

ただ、ひたすら交通事故に遭いませぬように、増してや誘拐や殺人や.....諸々の悲しい事件には遭いませぬように。

学校へ行って帰ってくる.....そんな平凡な毎日が約束されますように。

そう願うのが私のマイブーム。

「ミッケ! かくれんぼ絵本」

写真：ウォルター・ウィック

文：ジーン・マルゾーロ

デザイン：キャロル・D・カーソン

訳：糸井重里

小学館・本体 1,360 円

ファンタジー／びっくりハウス／クリスマス／ミステリー／たからじま／ゴーストハウス／がっこう などの各シリーズが発売されている